

市の全体像を視野に 地域の問題をピックアップ！



更地になっている旧太田駅北口駅前広場

市の玄関口としての 北口駅前広場へ

団塊の世代にとつては忘れられない光景が、旧太田駅北口駅前広場にはあります。

金曜日の夜八時。広場の入口脇に置かれた街頭テレビからはプロレスが中継され、我々が正義の味方、力道山に対するは極悪非道のシャープ兄弟。手に汗握る世紀の一戦に、旧北口駅前広場は黒山の人だかりで一杯でした。

あれから五十年を超える月日が流れ、線路の高架化に伴い、駅は東へ100メートルほど移り、かつての旧北口駅前広場は更地になって春の陽射しを浴びています。市ではここを鉄道会社から買い上げ、利活用しようとしています。

効活用を考えたつても、忘れてならないのが特例市・太田市にとつての「玄関口」という位置づけです。スバルの町、強いてはモノづくりの町としての性格を町の玄関口にどう反映させるのか——、などなど、多くの市民の英知が求められています。

金山城址線を浜町 へと延長させたい

金山城址線（通称：大門通り）と前橋館林線（通称：本町通り）の交叉する信号・本町はご存知のようにかぎ型に変形し事故なども起こりやすい所です。この道を浜町の浜町交差点から北へ伸びる広い道路へとつなげれば、車や人の流れは随分スムーズになり、安全になります。伊勢崎線と桐生線の二本の線路を横切ることになりますが、鉄道が高架化されている現在、工事もうやりやすくなっており、今がチャンスといったところでしょうか。

八幡町の朝市と道の 駅おたのオープン

一面のQ&Aでもふれたように「買い物難民」対策としての八幡町の朝市は人気もあり、順調に推移しています。加えて地域の人々の絆をはぐくんでいくという嬉しい現象も生まれ、最近では魚屋さんやうどん屋さん、花屋さんも加わり、賑やかになってきました。このようにいろんな人が関係し、コミ



八幡町の野菜朝市

ユニケーションが生まれていくことが、地域づくり、強いては町づくりにとつてはその土台になっていくような、そんな気もしています。

一方、地域の魅力を外へ向けてアピールしていくことも、忘れてはならないことだと思っています。来る2012年3月には上武国道沿い（尾島支所北西）に「道の駅おた（仮称）」がオープンします。規模は二万㎡余。三分の二を太田市が整備し、残りを国土交通省が整備。24時間利用可能なトイレや駐車場、交通情報案内などが設置される他、農産物の直売所もつくられるので、尾島のヤマトイモや藪塚の小玉スイカ、ダイコン、太田のネギ、イチゴ、ホウレンソウ、カキ菜……など、都市近郊の人にとっては人気スポットになるかもしれません。

新総合太田病院（仮称）が移転・開設

来年のことを言うと言いが笑う、と言いますが、来年の六月には、現在工事中の新総合太田病院（仮称）がいよいよ移転・開設となり、それ

にともない救命救急センター設置へ向けての動きも進められています。

高齢化社会にとつて、医療機関の充実が切実な問題ですので、市の中核病院としての性格を持つことになった同病院の存在は、今後ますます重さを増していくことになると思います。



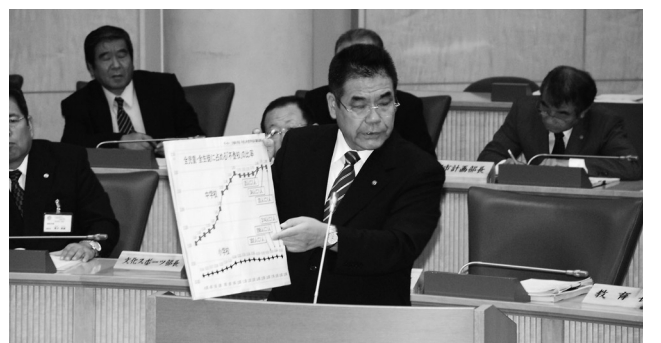
建設中の新総合太田病院（仮称）

より市民に開かれた 議会にするために

議員の仕事のうち大きなウェイトを占めているのが、議会に於ける質問です。

しかし、なかには一年間で一回も質問しない議員が、38人中13人もいるのが太田市議会の実態です。こうしたことを防ぐ意味からも、既存メディアやインターネットなどによる議会のライブ中継が求められています。いわば、開かれた議会の実現です。

質問をするには、議員側にもそれなりの勉強が必要です。地域づ



不登校児童生徒について議会一般質問する

くりや町づくりについてしっかりと勉強をし、質問に活かしていく。この当たり前のことが当たり前に行われるよう、議会の内容がリアルタイムに知れるよう、あらゆる手段をとっていくべきだと思います。

編集後記

昨夜（4/7）も強烈な余震があったばかりの東日本大震災。被災地の多くの人々にはここに改めてお見舞い申し上げます。さて、大川よういち通信10号では、大川さんの基本的姿勢・考え方を一面のQ&Aで語っていただき、二面では主に、地盤とされている旧太田市街地のかかえている諸問題をピックアップ。過疎化の進む旧市街地ならではの切実な問題——、買い物難民や限界集落問題などがクローズアップされてきました。記事で取り上げられなかった問題も多くあります。ご意見などお寄せ頂ければ幸いです。